

平成16年10月期 第一級海上特殊無線技士 試験問題

法規 12問 } 24問 1時間
無線工学 12問

法

規

〔1〕 船舶局（義務船舶局を除く。）の免許の有効期間は、何年か、正しいものを次のうちから選べ。

1. 3年
2. 4年
3. 5年
4. 無期限

〔2〕 次に掲げるものは、電波の型式を表示する記号であるが、振幅変調の両側波帯でアナログ信号である単一チャンネルを使用する電話のものは、どれか。

1. A3E
2. F3E
3. F1B
4. J3E

〔3〕 無線従事者は、その業務に従事しているときは、免許証をどのようにしていなければならないか、次のうちから選べ。

1. 通信室内の見やすい箇所に掲げる。
2. 無線局に備え付ける。
3. 通信室内に保管する。
4. 携帯する。

〔4〕 無線局が臨時に電波の発射の停止を命ぜられることがある場合は、次のどれか。

1. 免許状に記載された空中線電力の範囲を超えて運用したとき。
2. 発射する電波の質が総務省令で定めるものに適合していないと認められるとき。
3. 発射する電波が他の無線局の通信に混信を与えたとき。
4. 暗語を使用して通信を行ったとき。

〔5〕 電波法に基づく命令の規定に違反して運用した無線局を免許人が認めたときは、電波法の規定によりどのようにしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. その免許人を告発する。
2. その無線局の電波の発射を停止させる。
3. その無線局の免許人にその旨を通知する。
4. 総務省令で定める手続により総務大臣又は総合通信局長（沖縄総合通信事務所長を含む。）に報告する。

〔6〕 海岸局において、空電、混信、受信感度の減退等の通信状態については、電波法施行規則では、次のどれに記載しなければならないことになっているか。

1. 無線設備の保守管理簿
2. 無線局事項書の写し
3. 無線業務日誌
4. 無線検査簿

法

〔7〕 次の文は、秘密の保護に関する電波法の規定であるが、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを してはならない。」

- | | |
|-------|-------|
| 1. 放送 | 2. 公表 |
| 3. 記録 | 4. 窃用 |

〔8〕 無線電話通信において、応答に際し10分（海上移動業務の無線局と通信する航空機局に係る場合は5分）以上たたなければ通報を受信することができない事由があるとき、応答事項の次に送信することになっているのは、次のどれか。

1. 「お待ちください」及び呼出しを再開すべき時刻
2. 「どうぞ」及び通報を受信することができない理由
3. 「お待ちください」、分で表す概略の待つべき時間及びその理由
4. 「どうぞ」及び分で表す概略の待つべき時間

〔9〕 船舶局が安全信号を受信したときは、電波法の規定により、どのようにしなければならないことになっているか、次のうちから選べ。

1. 自局に関係のないことを確認するまでその安全通信を受信する。
2. 自局に関係のないものであってもその安全通信が終了するまで受信する。
3. できる限りその安全通信が終了するまで受信する。
4. 一切の通信を中止してその安全通信が終了するまで受信する。

規

〔10〕 無線局が相手局を呼び出そうとするとき、遭難通信等を行う場合を除き、一定の周波数によって聴守し、他の通信に混信を与えないことを確かめなければならないが、この場合において聴守しなければならない周波数は、次のどれか。

1. 他の既に行われている通信に使用されている周波数であって、最も感度の良いもの
2. 自局の発射しようとする電波の周波数その他必要と認める周波数
3. 自局の付近にある無線局において使用する電波の周波数
4. 自局に指定されているすべての周波数

〔11〕 遭難通報を受信した船舶局は、直ちに誰にその通報を通知しなければならないか、次のうちから選べ。

1. その船舶の責任者
2. 機関長
3. 通信長
4. 一等航海士

〔12〕 次の文は、遭難の呼出し及び通報について、国際電気通信連合憲章の規定に沿って述べたものである。 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線通信の局は、遭難の呼出し及び通報を、、絶対的優先順位において受信し、同様にこの通報に応答し、及び直ちに必要な措置をとる義務を負う。」

1. 自国の領海で発せられた場合には
2. 公海で発せられた場合には
3. 自国の領海及び公海で発せられた場合には
4. いずれから発せられたかを問わず